

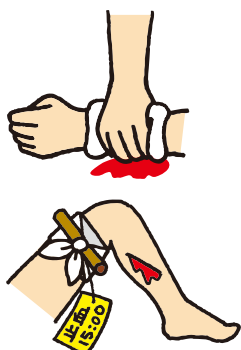
いざという時の応急処置

応急処置

● 知っておきたい応急手当のポイント

災害発生時の混乱状態では、救急車はすぐにはやってきません。専門的な治療はともかく、初期段階の応急手当は、負傷者のそばにいる人が行わなければならないのです。大切な人の生命を救うことができるよう、応急手当の方法を身に付けておきましょう。

出血がひどいときは



きれいなガーゼやハンカチなどを傷口に当て、手で圧迫するなど応急手当をし、急いで医療機関へ。
(感染症予防のため、ビニール袋に手を入れて押さえるなど、血液に直接触れないように注意する。)

やけどをしたら



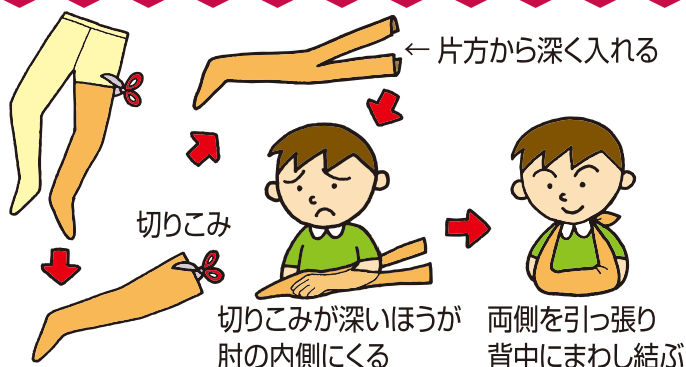
- ① 急いで水道水などの流水で冷やす。
- ② 衣服の上からやけどをした場合は、無理に脱がさず、そのまま冷やす。水ぶくれはつぶさない。
- ③ 冷やした後は清潔なガーゼなどで軽く包み、急いで医療機関へ。

骨折の疑いがあったら



- ① 患部を動かさないようにして手当をする。
- ② 患部に副木(なければ板やダンボール、傘、雑誌などでもよい)を当てて固定し、早めに医療機関へ。

ストッキングを使った応急処置



- ① 肩をたたきながら耳元で「大丈夫ですか」「もしもし」などと呼び掛ける。
- ② 意識がなければ「だれか来て!」と助けを求め、119番通報を依頼。一人きりの場合は自ら通報を。

意識がないときは

119番!



救命講習を受講しよう

救急車が119番通報を受けてから現場に到着するまで、全国平均で**約6分**かかります。**この6分間**が、**傷病者の生命を大きく左右するのです。**

かけがえのない命を救うためにも、人工呼吸や胸骨圧迫及びAED(自動体外式除細動器)などの救命技術を身に付けましょう。

救命講習は、消防署で実施しています。みんなで積極的に受講し、応急手当の方法を正しく覚えましょう。

